HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	宮崎兼光教授退官によせて
Citation	北海道大學教育學部紀要, 27, 207-209
Issue Date	1976-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29148
Type	departmental bulletin paper
File Information	27_P207-209.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

宮崎兼光教授退官によせて

本学部創立以来，功労のあった有岡教授が昭和49年度退官。続いて宮崎教授の退官であります。両教授には公私ともども御指導御鞭撻を載き，一夕感慨無量のものがあります。

宮崎教授のプロフィルを綴ることになった私ですが，先生の膨大な社会的業積を逐一御紹介するにはおのづから限度があり，日時は，どんどん経過し混沌の中で先生の一側面を述べることを御容赦願いたいと存じます。

扨て先生は昭和７年札幌師範学校卒業後，同校及び庁立札幌高女，札幌女子医専など女子教育に従事されて後，昭和23年４月北海道帝国大学予科助教授を拝命し，昭和26年４月体育専攻課程の設置に伴ない教育学部に配置換えとなり，爾来28年間を経過しております。昭和48年教授昇任があり，報われた憾が致します。

常に温厚篤実の先生は教育者として学徒の信望を蒐め，特に初心者指導には格別の定評があり，当然の如くに本学部生の専門教育法（体育）の講議を御担当載いたのであります。

体育の実際面では，第一に申し上げることはスキー指導の実積であります。先生は本道スキー黎明期からスキーを実施し，全道教職員への指導，延いては全日本スキー連盟の技術委員として，数多くの指導員を育成し，本道スキー界の第一人者として功積が認められております。先生のスキーは元来ツァースキーから始まり，45年余の年輪が優雅なスキー術となり，精神的荘重さを加える芸術性があります。常に先生は「スキーヤーはゲレンデでも山でも，自己行動のすべてに深い探索と思索を巡らし，スキーヤー自体は無言の共通性が親近感を招び信頼感を湧出するものであり，清涼剤的存在である」。と真に人生訓として，人間関係の稀薄さを説論する純粋性にあると思われます。また冬山登山について「冬山は絶対に危険と決まっては誠に味気ない，危険に対処した周到な言動が楽しい思い出にもなり得るもので，安全だと断言できない人間哲学や厳粛性がある」と述べられ，綿密な計画と準備，練磨された体力，適確な判断力，そして山への情熱や憧憬を持って神妙になることを教訓しております。またリーダーは，前進するファイトを臓して行動し，時には引き退る勇気の重要性をも説得しております。

斯うした慎重なスキー指導が，近年の余暇産業の開発でゲレンデ・スキーに集点が合わされ，スキー人口増大とともにスキー場の事故や傷害者の激増があります。先生はいち早く事態を察知し，昭和36年札幌スキー傷害防止対策協会を発足し，自からパトロール隊長となり活躍され現在なお常任委員長としてその対策に献身されているのであります。

第二の特技種目はバスケットボールでありますが，北海道学生連盟会長，北海道バスケットボール協会理事長であり，蘊奥を極めた高度の技術があります。先生は師範学校時代に季想白氏の「指導籠球の理論と実際」を完全にマスターし，涙血の訓練を経て，ジャンプ・ショットの創始者として自他とともに許す技術があります。昭和６年全国師範学校大会で優勝の大偉業を成し遂げた時の主将でもあります。卒業後も全国で数多くの優勝を収め，本道代表選手活動を15年も続けた精進ぶりには心服するものであります。現役を退いて後はチーム作りと指導に奔走し，札幌教員チームを国民体育大会で優勝・準優勝４回，岩見沢西校をも全国大会で準優勝を飾り，また北籠チーム生みの親でもあります。さらに活動範囲は広く，某放送解説者でもあり，指導普及のために各地の講習会には積極的に

指導助言をなされたのであります。

先生はバスケット以外にも，戦後学校体育指導や新ラジオ体操等の各種講習会で，各地域に赴いたのであります。先生は一見優柔不断と誤解されることもありますが，時機を得た決断力と実行力があり，社会体育振興に数多くの要職を持つ所以ともなっています。際限ない要職と激務は，45年余に亘るスキーのベテランである先生を，今年初冬本学部生のスキー授業中アキレス腱断裂で，入院される事態を想起出来るのであります。

先生は本来的に健康そのもので品格が備なわっていました。豊かな黒髪，柔和な顔貌，均整のとれた形態・常住座臥の正常姿勢は推定年令を40代の若さにしております。特に脊柱の生理的弯曲と重心線の対比からも，スポーツマンの理想体型と姿勢であり健康体型でもあります。さらに先生はスポーツは固より書道師範の実積からも伺えますが華麗なる書とともに流麗な評論家として某紙の社会短評を一年間担当し，豊饒な知識と適確な行政への示唆があります。論評は環境愛護の精神と公徳心をスポーツを通じて培うことに力点がおかれ，日常生活の中から諭したものであり，即ち秀れた体型や姿勢は，文・書・スポーツ・日常生活態度から醸成されたものであり，犯し難い態勢の中から産出された品格であることに気付いた次第であります。

本学に関わる貢献は，教養部一般体育ではバスケット・ハンド・バレー等の球技と保健運動があり特にスキー訓練を通してスポーツの生活化・安全教育の実積があります。本学部専門体育では北海道の体育スポーツに関する史証的研究と体系づけがなされ，また寒冷地のスポーツ及び体力づくりの論考多く，北海道人間開発的思考の理論と実践に意味深いものがあります。また正課外活動の体育団体では基礎スキー部やハンドボール部を創立し指導しております。とりわけ本学における重責の一つに北大体育指導センター所長の任があります。このセンターは札幌冬季オリンピック開催に伴ない，科学的トレーニングの必要性から漸く実現した施設で，この設立には困難な多方面に亘る複雑な折衝過程があり，その重要メンバーの御一人であった先生が，三代目所長となり管理運営の責任者となっているのであります。

先生は社会体育の指導者育成や大衆スポーツ振興に情熱を傾け，その功積に対しての各種スポーツ団体・札幌市体育連盟スポーツ賞，市民スポーツ賞，全国体育指導委員協議会功績賞等々の表彰がありますが，特に昭和48年10月９日文部大臣の栄誉ある体育功労者受賞があります。この受賞は昭和36年スポーツ振興法制定による市町村任命の，全道体育指導委員連絡協議会結成により，スポーツの低辺拡大と指導者養成・健康づくりを意図する研修会を開催したこと。政令都市札幌の 110万市民対象に，行事計画や遂行の原動力になったこと。並びに札幌がオリンピック再立候補の招致推進会議のイニシァチブをとり，実施に際し聖火リレーの実際指導，住民のオリンピック意識集約など蔭の功労が認められたものであり，即ち社会体育の広範囲に及ぶ指導実積に対しての表彰であります。

兎もかく先生は我々の全く知らぬ場に於いて，夥しい要職にあったことを知った次第であります折々に良く学外に出掛けられる先生だと思っていましたが，この御活躍に尊敬と驚嘆を覚ゆるのみであります。唯々過去に孔孟の深さに接し得ず「三尺退って師の影を踏まず」近寄り難きを今更ら乍ら知ったことを誠に残念に思うのであります。

先生の広汎な学識経験的視点を要求した社会的情勢に対しても，今後も益々御活躍されることが予想されますが，また先生にも本学にも無限の可能性を持つ体育の使命が残存しております。従って時に応じ学内的義務は全く消滅したとは言い難いものがあります。今後は趣味を生かし，切手・マッチの蒐集・専門的識見を持つ映画鑑賞・旅行等の余裕の中から，先生の豊饒な御体験から滲み出る体

育哲学を北大体育教室のために語りかけて載きたい。また我々後継者との有機的結合を祈念するものであります。

以上表現力の拙劣さから偉大な先生のプロフィルが隠蔽される所多く，御叱声あらうかと思いますが，失礼の段ここに陳謝申し上げる次第であります。

最後に宮崎兼光教授の在職28年間に及ぶ，内外の偉大な功績は北海道大学に，永く留まる所であり，先生に感謝しつつペンを擱く次第であります。

昭和50年11月25日

室　木　洋　一